

中央小では、R5年度より国語科を中心に「単元を貫く言語活動」を意識した授業づくりの研究を進めています。言語活動を魅力的なものに設定することで、子どもたちがより意欲的に、単元の見通しをもって学習にとりくめるようにしています。「話す、書く、読む」活動についても、どのような目的があるかによって、子どもたちのとりくむ態度が変わるように感じています。どのような言語活動が、子どもたちにどのような力を付けられるのか、まだまだ研究が必要な部分であると考えています。

本実践は、5年生の最初の文学的な文章の教材である「銀色の裏地」での学習です。単元のゴールとして、自分の印象にのこったところを踏まえて、相関図を書くことを設定しています。

本実践のなかでは、ペアトークを繰り返し取り入れました。  
以前までは、ペアトークの位置づけを、完成したものや自分の考えなどを交流する目的で取り入れることが多かったのですが、現在は、未完成なものを完成に近づけたり、自分の考えをよりはっきりさせるためのペアトークを取り入れるように意識しています。

## ペアトークの流れ

- ①話し合う目的を知る。(考えをはっきりさせる、など)
- ②話し合う相手を決める。(自分の考えが近い人、同じ本を読んでいる人、など)
- ③2人で隣の席に座り、話を始める。
- ④話が終わったら、②に戻り、また話相手を決め、話を始める。  
(②から④を繰り返す)

## メリット

- ・話し相手を変えることで、誰に対しても自分の考えがわかりやすくなっているかを客観的にとらえることができます。また、助言をもらうときにも、いろいろな意見をもらうことができます。
- ・話し相手を選ぶというところから、子どもの自主性が働くので、主体的に話をする態度を身に付けさせやすいと考えています。

単元名 教材名  
人物の心情や人物同士の関わりをとらえ、印象に残ったところを伝え合おう。  
「銀色の裏地」 光村図書 5年

## 単元の目標

- ・人物の関係や心情を簡単な図に表すことができる。(知(2)イ)
- ・登場人物の関わりがわかる言動や情景などの言葉を基に、登場人物の心情を捉える。(思C(1)イ)
- ・物語で印象に残ったところとその理由を相手に伝えようとしている。

## 単元計画

- ①「銀色の裏地」を読んで、物語の設定を確かめ、感想を書く。
- ②③人物の行動や心情がわかる言葉を見つけ、心情の変化をまとめる。
- ④⑤物語で自分かが印象に残ったところを選び、相関図を作成する。
- ⑥自分が共感したところとその理由を交流する。
- ⑦人物の行動や心情がわかる言葉を見つけ、物語全体の相関図を書く。

## 成果〇と課題●

- 〇心情がなんとなくわかるという状態から、教科書の叙述を基に心情を読み取ることができるようになった。
- 未完成の相関図を完成に近づけるためにペアトークを行った際に、未完成の児童の考えを引き出すことはできるが、できていない子は、話相手の意見をそのまま書き写しているだけの児童もいた。相手の意見と自分の意見を比べながら、ペアトークを進める手立てを考えていくことが必要。

